

韓国銀行による2000年朝鮮民主主義人民共和国のGDP推定結果

韓国銀行は独自に朝鮮民主主義人民共和国（以下、北朝鮮と表記）の国民経済計算の推定を行っており、毎年その結果を発表している。

この推定は、基礎資料の不足等により、北朝鮮経済を必ずしも正確に反映しているとはいえないが、国連の国民経済計算の国際標準体系(SNA: A System of National Accounts)を適用して算出されており、北朝鮮経済の概括的な動向と経済規模および経済構造等の実情を把握する上で、貴重な資料となっている。

以下は、ERINA 翻訳による、韓国銀行『2000年北朝鮮 GDP 推定結果』全文である。

	ページ
要約	2
. 経済成長率	5
< 概況 >	5
< 産業別動向 >	5
. 産業構造	6
. 韓国・北朝鮮間の経済力の比較	7
< 参考 >	10
1. 2000年 韓国・北朝鮮の主要経済指標の比較	10
2. 北朝鮮 GDP の推定方法の概要及び精度	11

< 要 約 >

1. 経済成長率

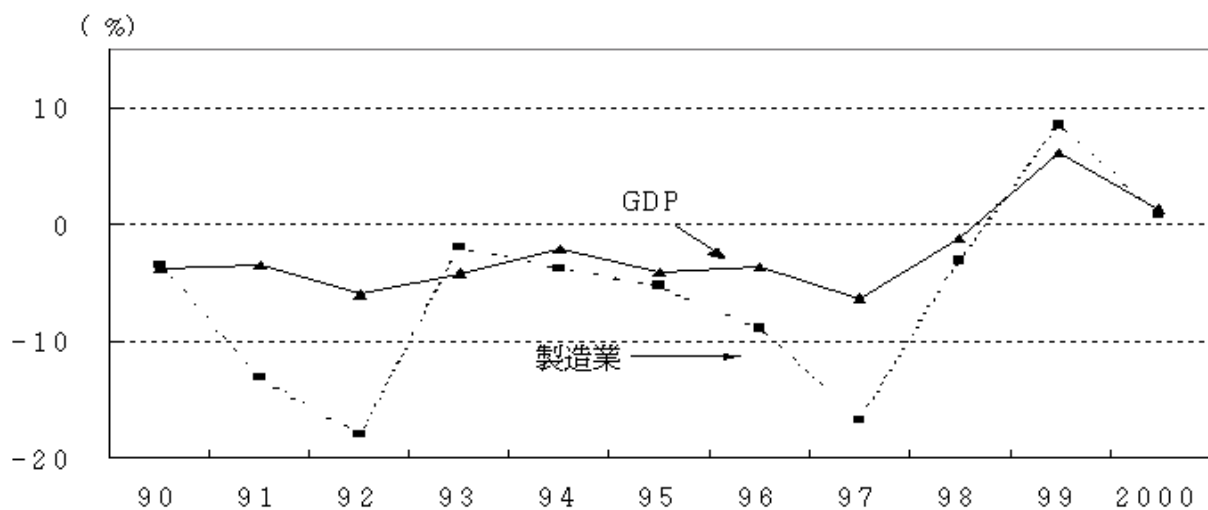
- 2000年の北朝鮮の実質国内総生産は、穀物の収穫量が大幅に減少(-15.0%)したが、建設業と鉱業が高い成長率を持続したことにより1.3%増加した。
- ・ 農業の不振により成長率が鈍化したが、前年(6.2%)に続き、プラスの成長率を維持しており、建設及び設備投資の拡充に伴って成長基盤が補強された。
- ・ 鉱業、製造業、建設業、サービス業など大部分の産業は、生産が増加したが、農林水産業は自然災害の影響で穀物の生産が大きく減ったことにより減少した。

北朝鮮の経済成長率の推移

単位：%

	1995	1996	1997	1998	1999	2000
GDP 成長率	-4.1	-3.6	-6.3	-1.1	6.2	1.3
	<8.9>	<6.8>	<5.0>	<-6.7>	<10.9>	<8.8>
農林水産業	-10.4	0.5	-3.8	4.1	9.2	-1.9
鉱業	-1.2	-11.9	-13.9	-6.1	14.1	5.8
製造業	-5.2	-8.9	-16.8	-3.1	8.5	0.9
建設業	-3.2	-11.8	-9.9	-11.4	24.3	13.6
サービス業	1.7	1.1	1.3	-0.5	-1.9	1.2
(政府)	(2.8)	(1.8)	(2.2)	(-0.3)	(-4.5)	(0.5)

< > 内は韓国のGDP成長率



2. 産業構造

- 2000年の北朝鮮の産業構造は農林水産業と製造業の割合が低くなった一方、鉱業、電気業、建設業の割合が高くなった。
- ・ 鉱業、電気業、建設業の割合は、エネルギー不足の解消及び社会間接資本の拡充に力を集中したことに伴い高くなりつつある。
- ・ 農林水産業(30.4%)及び電気・ガス・水道業(4.8%)の割合は韓国より高い反面、鉱工業(25.4%)、建設業(6.9%)及びサービス業(32.5%)の割合は韓国より低い水準であり、60年代後半の韓国の産業構造と類似している。

北朝鮮の産業構造

単位：名目基準、%

	北朝鮮			韓国	
	1998	1999	2000	1999	2000
農林水産業	29.6	31.4	30.4	5.1	4.6
鉱業	6.6	7.3	7.7	0.4	0.3
製造業	19.0	18.3	17.7	30.7	31.5
電気・ガス・水道業	4.2	4.5	4.8	2.7	2.8
建設業	5.1	6.1	6.9	8.7	8.2
サービス業	35.6	32.4	32.5	52.4	52.6
国内総生産	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

3. 韓国・北朝鮮間の経済力比較

- 2000年の北朝鮮の経済規模(名目GNI)は、韓国の約1/27、1人当たりGNI*は約1/13の水準と推定され、経済力の格差は前年より拡大した。

* 韓国のウォン貨の対米ドルの為替レートで換算した、2000年の北朝鮮の1人当たりGNIは約757ドルと推定される。

北朝鮮の経済規模及び一人当たりGNI比較

	北朝鮮(A)		韓国(B)		B/A(倍)	
	1999	2000	1999	2000	1999	2000
名目GNI(10億ウォン)	18,741.0	18,977.9	476,597.6	514,635.4	25.4	27.1
1人当たりGNI(万ウォン)	84.9	85.6	1,017.1	1,088.6	12.0	12.7

- 2000年の北朝鮮の対外貿易規模は、19億7千万ドルで、韓国の約1/169の水準である。

2000年の北朝鮮の輸出及び輸入がそれぞれ7.7%及び46.9%増加し、対外貿易規模は前年比で33.1%増加した。これに伴い、対外貿易規模の韓国・北朝鮮間の格差は前年より縮小している。

- 発電設備、トラック、掘削機など資本財を中心に輸入が大幅増となっている。

韓国・北朝鮮間の対外貿易規模の比較

	北朝鮮 (A)		韓国 (B)		B/A(倍)	
	1999	2000	1999	2000	1999	2000
貿易規模 (億ドル)	14.8	19.7	2,634.4	3,327.5	178.0	168.9
輸出	5.2	5.6	1,436.9	1,722.7	276.3	307.6
輸入	9.6	14.1	1,197.5	1,604.8	124.7	113.8
輸出入の対GNI比率*	9.4	11.7	65.7	73.1	-	-

* 輸出入の対GNI比率(%) = (通関基準輸出入額 / 名目GNI) × 100

- 一方、2000年の韓国・北朝鮮間の貿易規模は4億2500万ドルで前年より27.5%増加している。
- ・ 韓国の対北朝鮮輸出は、商業性取引が38.7%増加しており、肥料など支援物資と軽水炉事業物資など非商業性の取引が24.1%増加し、全体的に28.8%増加している。
- ・ 輸入は、農林水産品などの商業上取引と繊維類、電気及び電子機器などの委託加工貿易を中心として25.3%増加している。

主要輸出品目：化学工業製品、繊維類、機械類・運搬機械、電気及び電子の順

主要輸入品目：農林水産品、繊維類、鉄鋼・金属製品、電気及び電子の順

南北間貿易の推移

	単位：百万ドル、%					
	1997	1998	1999(A)	2000(B)	(B-A)	増加率
輸出*	115.3	129.7	211.8	272.8	61.0	28.8
輸入*	193.1	92.3	121.6	152.4	30.8	25.3
合計	308.3	221.9	333.4	425.2	91.8	27.5

* 韓国基準

． 経済成長率

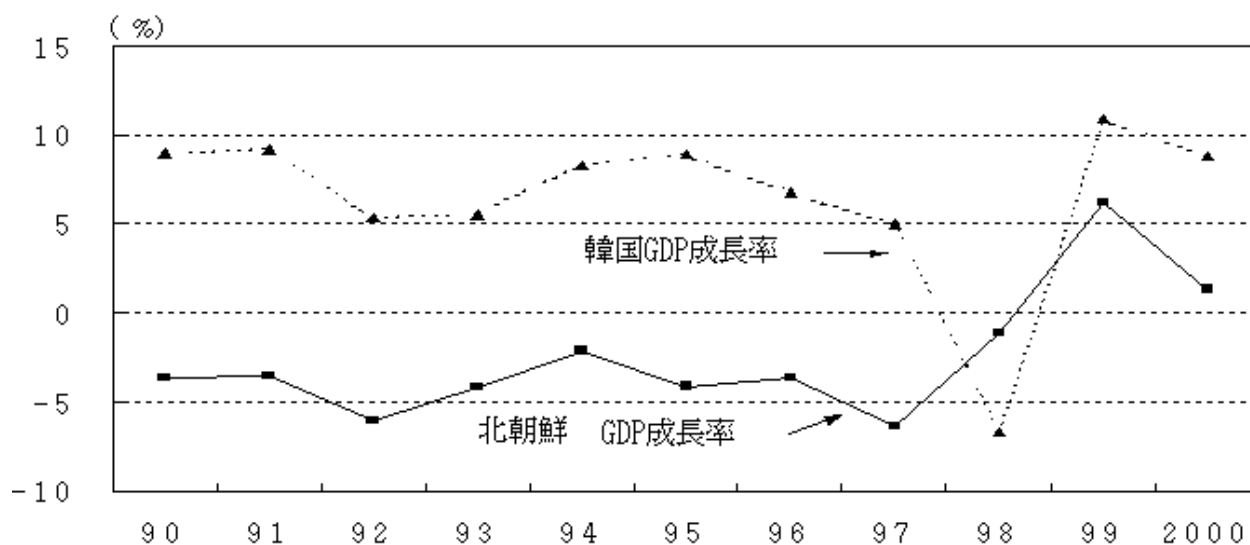
< 概 況 >

- 2000年の北朝鮮の経済成長率（実質GDP基準）は 1.3%と前年に続きプラスの成長であったが、成長幅が大きく縮小した。
- ・ 北朝鮮は2000年に基幹産業の正常化、国民消費品生産増大、農業部門への集中及び経済的実利追求などを経済部門の中心施策として設定し経済回復に力を注いでいる。
- ・ こうした努力の結果、多くの産業の生産が増加したが、比重の高い農業は自然災害の影響で穀物の収穫量が大きく減ったことによりマイナス成長となった。

北朝鮮の経済成長率の推移

											単位：%
1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	
-3.7	-3.5	-6.0	-4.2	-2.1	-4.1	-3.6	-6.3	-1.1	6.2	1.3	
(9.0)	(9.2)	(5.4)	(5.5)	(8.3)	(8.9)	(6.8)	(5.0)	(-6.7)	(10.9)	(8.8)	

()内は韓国の経済成長率



< 産業別 動向 >

- 農林水産業は、畜産業が食糧難の解決のための牛、豚、山羊など家畜飼育の奨励によって73.9%増加し、漁業も内水面養殖を中心に5.1%増加したが、比重が大きな栽培業が、干ばつ、台風など気象条件の悪化により作柄の不振のため7.9%減少したことに伴い全体的には昨年より1.9%減少した（昨年は前年比+9.2%）。

- ・ 穀物収穫量（精穀基準）は、米穀が142万トンで昨年より12.6%減少し、トウモロコシ及び豆類も減ったため、昨年（422万トン）より15.0%減少した359万トンにすぎず、穀物需要量*と比べ大きく不足している。
- * 北朝鮮の2001年度穀物需要量の推定値：22%減量配給基準（成人546g/日）524万トン前後
正常配給基準（成人700g/日）613万トン前後
- 鉱業は、エネルギー不足解決のための石炭増産努力などにより石炭生産が6.1%増加し、石灰石、塩など非金属鉱物の生産も9.4%増加したため、全体的に5.8%増加した（昨年は前年比+14.1%）。
- 製造業は、基幹産業と住民消費品の生産増大など製造業部門の生産正常化に力を注いだことで前年より0.9%成長した（昨年は前年比+8.5%）。
- ・ 部門別として軽工業生産は、飲食糧品、繊維衣服などを中心に6.2%増加したが、重化学工業の生産は鉄鋼及び金属製品の不振により1.5%減少した。
- 電気・ガス・水道業は、電力不足の克服のための火力発電所の稼働率の向上、新規発電所の建設など火力発電が9.7%増加し、さらに、ガス及び水道業も伸びて全体的に3.0%増加した（昨年は前年比+6.8%）。
- 建設業は、道路、電力施設、農業基盤施設など土木建設が大幅に増加した上で、工場、住宅など建物建設も大きく伸びたため、全体的に13.6%増加した（昨年は前年比+24.3%）。
- サービス業は、飲食宿泊業(26.6%)が観光客増加などにより高い成長率を見せており、運輸業（5.7%）も確実に伸びたことにより全体的に1.2%増加し、昨年の減少傾向から反転している（昨年は前年比-1.9%）。

北朝鮮の産業別成長率

単位：%

	北朝鮮			韓国	
	1998	1999	2000	1999	2000
農林水産業	4.1	9.2	-1.9	5.4	0.1
鉱工業	-3.9	9.9	2.2	20.9	15.2
鉱業	-6.1	14.1	5.8	5.3	2.2
製造業	-3.1	8.5	0.9	21.0	15.4
(軽工業)	(-0.2)	(2.4)	(6.2)	(8.9)	(2.8)
(重化学工業)	(-4.6)	(11.6)	(-1.5)	(24.5)	(18.5)
電気・ガス・水道業	-9.2	6.8	3.0	10.4	12.6
建設業	-11.4	24.3	13.6	-9.1	-3.7
サービス業	-0.5	-1.9	1.2	9.0	6.8
(政府)	(-0.3)	(-4.5)	(0.5)	(4.2)	(3.0)
(その他)	(-1.1)	(3.9)	(2.5)	(11.7)	(8.9)
国内総生産 (GDP)	-1.1	6.2	1.3	10.9	8.8

産業構造

- 2000年の北朝鮮の産業構造をみると、鉱業、電気・ガス・水道業、建設業の比重が高くなった反面、農林水産業と製造業の比重は低くなっており、サービス業は前年と同じような水準を維持した。
 - ・ 農林水産業は、栽培業の作況不振により、製造業は重化学工業の生産低調により、それぞれが前年より低い30.4%及び17.7%を記録している。
 - ・ 鉱業、電気・ガス・水道業、建設業の比重は、深刻なエネルギー不足の解消及び不足した社会間接資本の拡充などに力を入れたことによって高くなりつつある。
 - ・ サービス業は、政府サービス業の比重が前年より0.2%下落した反面、その他のサービス業の比重が前年より0.2%上昇したため、前年と同じくらいの水準を維持した。
- * 北朝鮮の産業構造は、韓国と比べ農林水産業、鉱業及び政府サービス業の比重が非常に高い一方、製造業及びその他のサービス業の比重が非常に低い。

北朝鮮の産業構造

単位：名目基準、%

	北朝鮮			韓国	
	1998	1999	2000	1999	2000
農林水産業	29.6	31.4	30.4	5.1	4.6
鉱工業	25.6	25.6	25.4	31.1	31.8
鉱業	6.6	7.3	7.7	0.4	0.3
製造業	19.0	18.3	17.7	30.7	31.5
(軽工業)	(6.4)	(6.1)	(6.5)	(7.4)	(7.2)
(重化学工業)	(12.6)	(12.2)	(11.2)	(23.3)	(24.3)
電気・ガス・水道業	4.2	4.5	4.8	2.7	2.8
建設業	5.1	6.1	6.9	8.7	8.2
サービス業	35.6	32.4	32.5	52.4	52.6
(政府)	(25.3)	(22.8)	(22.6)	(10.0)	(9.9)
(その他)	(10.3)	(9.6)	(9.8)	(42.4)	(42.7)
国内総生産	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

・ 韓国・北朝鮮間の経済力の比較

- 2000年の北朝鮮の経済規模（名目GNI）は、18兆9,779億ウォンで、韓国の約1/27の水準である。
- ・ 北朝鮮の2000年の経済成長率は、韓国の経済成長率に及ばず、経済規模の韓国・北朝鮮間の格差が前年よりさらに拡大した。
- 2000年の北朝鮮の一人当たり国民所得（GNI）は、85.6万ウォンで、韓国の約1/13の水準である。

韓国ウォンの対米ドルの為替レートで換算した、2000年の北朝鮮の1人当たりGNIは約757ドルと推定される。

- 2000年の北朝鮮の人口は、22,175千人であり、韓国の約1/2の水準である。

北朝鮮の経済規模及び一人当たりGNI比較

	北朝鮮 (A)		韓国 (B)		B/A(倍)	
	1999	2000	1999	2000	1999	2000
名目GNI (10億韓国ウォン)	18,741.0 (6.5)	18,977.9 (1.3)	476,597.6 (9.2)	514,635.4 (8.0)	25.4	27.1
1人当たり GNI (万韓国ウォン)	84.9	85.6	1,017.1	1,088.6	12.0	12.7
人口 (千人)	22,082	22,175	46,858	47,275	2.1	2.1

注：()内は前年対比増加率(%)

- 2000年の北朝鮮の対外貿易規模は、19億7千万ドルであり、韓国の約1/169の水準である。
- ・ 2000年の北朝鮮の輸出及び輸入がそれぞれ7.7%及び46.9%増加し、対外貿易規模は前年比で33.1%増加した。これに伴い、対外貿易規模の韓国・北朝鮮間の格差は前年より縮小していた。
- ・ 発電設備、トラック、掘削機など資本財を中心に輸入が大幅増となっている。

(訳者注：韓国銀行発表の北朝鮮対外貿易統計には韓国と北朝鮮間の貿易が除外されている。)

韓国・北朝鮮間の対外貿易規模の比較

	北朝鮮 (A)		韓国 (B)		B/A(倍)	
	1999	2000	1999	2000	1999	2000
貿易規模 (億ドル)	14.8	19.7	2,634.4	3,327.5	178.0	168.9
輸出	5.2	5.6	1,436.9	1,722.7	276.3	307.6
輸入	9.6	14.1	1,197.5	1,604.8	124.7	113.8
輸出入の対GNI比率*	9.4	11.7	65.7	73.1	-	-

* 輸出入の対GNI比率(%) = (通関基準輸出入額 / 名目GNI) × 100

- 一方、2000年の韓国・北朝鮮間の貿易規模は、4億2500万ドルであり、前年より27.5%増加している。
- ・ 韓国の対北朝鮮輸出は、商業性交易が38.7%増加しており、肥料など支援物資と軽水炉事業物質など非商業性の交易が24.1%増加し、全体的に28.8%増加している。
- ・ 輸入は、農林水産品などの商業上取引と繊維類、電気及び電子機器などの委託加工貿易を中心に25.3%増加している。

主要輸出品目：化学工業製品、繊維類、機械類・運搬機械、電気・電子の順

主要輸入品目：農林水産品、繊維類、鉄鋼・金属製品、電気・電子の順

南北間貿易の推移

	1997	1998	1999(A)	2000(B)	単位：百万ドル、%	
					(B-A)	増加率
輸出*	115.3	129.7	211.8	272.8	61.0	28.8
輸入*	193.1	92.3	121.6	152.4	30.8	25.3
合計	308.3	221.9	333.4	425.2	91.8	27.5

* 韓国基準

< 参考 1 >

2000年の韓国・北朝鮮間の主要経済指標の比較

	単位	北朝鮮 (A)	韓国 (B)	B/A(倍)
1. 人口	千人	22,175	47,275	2.1
2. 名目GNI	10億韓国ウォン	18,977.9	514,635	27.1
3. 1人当たり GNI	万韓国ウォン	85.6	1,088.6	12.7
4. 経済成長率	%	1.3	8.8	-
5. 対外経済				
貿易総額	億ドル	19.7	3,327.5	168.9
(輸出)	"	5.6	1,722.7	307.6
(輸入)	"	14.1	1,604.8	113.8
(貿易額/名目GNI)	%	11.7	73.1	-
対米為替レート	ウォン/ドル	2.19	1,130.61	-
対外債務	億ドル	124.6	1,363.1	11.1
<純対外債務>	億ドル	N.A.	-30.6	N.A.
(対外債務/名目GNI)	"	74.2	29.9	-
	%			
6. 予算規模 ¹⁾	億ドル	95.7	784.9 ¹⁾	8.2

注：1) 北朝鮮の決算基準、韓国は中央政府の一般会計予算（補正予算を含む）基準

	単位	北朝鮮 (A)	韓国 (B)	B/A(倍)
7. エネルギー産業				
石炭生産量	万トン	2,250	415	0.2
発電容量	万 kW	755	4,845	6.4
発電量	億 kW	194	2,664	13.7
原油導入量	万トン	39	12,081	309.8
8. 農水産物生産量				
穀物	万トン	358.8	591.1	1.6
(米)	"	142.4	529.1	3.7
水産物	"	69.8	254.5	3.6
9. 鉱産物生産量				
鉄鉱石	万トン	379.3	16.3	0.04
非鉄金属	"	9.6	111.7	11.6
10. 主要工産品生産量				
自動車	万台	0.66	311.4	471.8
鋼鉄	万トン	108.6	4,310.7	39.7
セメント	"	460.0	5,125.5	11.1
肥料	"	53.9	373.0	6.9
化繊	"	2.9	264.6	91.2
11. インフラ				
鉄道総延長	Km	5,214	3,123	0.6
道路総延長	Km	23,633	88,775	3.8
港湾荷役能力	万トン	3,530	43,044	12.2
船舶保有	万トン	81.0	615.3	7.6

< 参考 2 >

北朝鮮GDPの推定方法の概要及び精度

1. 推定方法の概要

- 韓国銀行は、91年以降毎年北朝鮮の経済を担当する関係機関から生産量関連の基礎資料を提供され、「北朝鮮GDP」を推定している。
- ・ 同推定作業は、北朝鮮の経済力を韓国の経済視角から評価し、対北朝鮮政策の立案資料として活用する目的で進められている。
 - したがって、推定方法は韓国の推定方法である国連の国民計定体系*(SNA, A System of National Accounts)が適用されている。
 - * 現在、韓国を含む大部分の自由主義の国家だけでなく、ロシア、中国など社会主義の国家も国民所得統計の編制時に同体系を適用している。
 - また、韓国の価格及び附加価値率をそのまま適用し推定している

2. 推定値の精度

- 北朝鮮GDPの推定結果は、基礎資料の不足により北朝鮮の生産方式、商品の品質及び価格などを正確に反映することができなく、北朝鮮経済の実態とは多少の乖離がありかねないが、

北朝鮮の客観的生産活動の動向及び産業構造の変化などを把握するのに、国内外においても非常に正確な資料として評価されており、北朝鮮経済を韓国と同じ水準で評価することにより、韓国・北朝鮮間の経済力の比較が容易になるばかりでなく、将来の韓国・北朝鮮経済の統合に備えた統一費用算出などに利点がある。